

## 「減らすから無くすへ」をキーワードに ライフサイクル全体での環境活動を推進



生産技術センター長  
今枝 勝行

企業が持続可能な社会づくりに貢献するためには、環境負荷の低減に責任をもって取り組む必要があり、当社は5カ年ごとに中期計画として環境取り組みプランを策定し、CO<sub>2</sub>や廃棄物の低減、化学物質の適正管理、生物多様性保全の取り組みを推進しています。

近年では、地球温暖化による気候変動、生物多様性の喪失など、環境リスクの高まりが世界的な共通認識となっており、私たちは今、変わることが求められています。社会が大きく変化していく中で、当社はこれまで環境負荷を“減らす”活動を進めてきましたが、これからは、一人ひとりが必ず“無くす”まで到達しないと行けない、という意識を持つことが必要です。そして、その中でも最もリスクの高い社会課題が、気候変

動問題です。私自身、最近の集中豪雨や季節外れの異常気象には怖さを感じます。当社は、この気候変動を止めるべくカーボンニュートラル戦略推進室を新設、2050年までにCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにする新たな環境目標を設定しました。そのマイルストーンとして「カーボンニュートラル戦略2030」を策定し、本社・本社工場では先行して2030年までにカーボンニュートラルの実現をめざします。これまでの工場CO<sub>2</sub>低減の取り組みに加え、製品では低CO<sub>2</sub>材の利用拡大、物流ではトラックの環境対応車への切替え、調達では仕入先さまと連携したCO<sub>2</sub>低減取り組みなど、ライフサイクル全体の観点から活動を推進しています。

### 環境方針

東海理化グループでは、環境スローガン「人と車の調和をめざし、企業活動に伴う環境負荷の低減を図ります」のもと、環境方針を定めて環境への取り組みを進めています。

- 1 経営理念、社員行動指針に基づき、環境への取り組みを進めます。  
主な取り組み項目 地球温暖化防止、省資源・リサイクル・廃棄物低減、化学物質管理、新環境技術の積極的な導入・開発、ライフサイクルアセスメントの推進、生物多様性保全など
- 2 法・地域や顧客との約束を守り、さらに自主目標を定め、環境汚染の未然防止を進めます。
- 3 環境委員会を設置し、継続的な環境改善活動を展開します。

### 中長期目標

2050年までにCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにする目標を設定し、そのマイルストーンとして「カーボンニュートラル戦略2030」を策定しました。製品、生産、調達、物流の4つの戦略を軸にライフサイクル全体での活動を進めています。

	実施事項	主要 KPI
製品戦略	・LCAシステムの構築と運用 ・低CO <sub>2</sub> 設計 ・化石資源プラスチックの代替推進	製品CO <sub>2</sub> '40年 ▲30% '30年 ▲10%
生産戦略	・温室効果ガス代替化 ・省エネ・再エネ/新エネ	工場CO <sub>2</sub> '30年 ▲60% 再エネ率 '30年 25%
調達戦略	・仕入先さまのCO <sub>2</sub> 低減 -改善横展によるCO <sub>2</sub> 低減 -各戦略における仕入先さま連携	協力会社CO <sub>2</sub> '30年 ▲20%
物流戦略	・物流の効率化 ・梱包資材の材質変更 ・トラックの燃料変更	環境対応車比率 '30年 50%

### 第7次環境取り組みプラン(2021~2025年)

持続可能な社会の構築に貢献していくため、「脱炭素社会の構築」「循環型社会の構築」「自然共生社会の構築」の3つの柱で取り組みを推進しています。

第7次環境取り組みプランの初年度である2021年度は、カーボンニュートラルに向けた新体制により部署間や海外拠点との連携を一層強化し、グループ全体で一丸となって取り組み、一項目を除いて目標を達成することができました。目標未達の梱包・包装資材については、挽回計画により、2022年度の達成をめざしていきます。



第7次環境取り組みプラン実績(2021年度)

	2021年度活動実績	2021年度目標	2021年度実績	評価	
脱炭素社会の構築	製品の軽量化・小型化設計の推進	● 小型化・軽量化推進 ● 主要製品のLCA(ライフサイクルアセスメント)評価	—	—	○
	CO <sub>2</sub> 排出量の低減	● 省エネ分科会による生産設備の改善 ● 省エネ改善事例の水平展開 ● 啓発活動(展示会、優秀事例表彰) ● E-ラーニングを活用した省エネ教育の実施 ● 再生可能エネルギーの導入	東海理化グループ 119,392 t-CO <sub>2</sub>	東海理化グループ 118,883 t-CO <sub>2</sub>	○
	温室効果ガスの低減	● マグネシウム製造工程の防燃ガス(SF <sub>6</sub> )代替化推進	—	—	○
	物流活動における輸送効率の追求とCO <sub>2</sub> 排出量の低減	● ルート見直しによる輸送効率化 ● 荷姿改善による輸送効率化	東海理化 2,960 t-CO <sub>2</sub>	東海理化 2,797 t-CO <sub>2</sub>	○
自然共生社会の構築	生産活動における環境負荷物質の低減	● PRTR法対象物質の使用量低減 ● VOCの排出量低減	—	—	○
	製品含有化学物質管理の充実	● 化学物質規制の各国動向把握 ● 規制物質を含まない製品への切替え	—	—	○
	環境保全・生物多様性保全の推進	● 地域と連携した里山、湿地の保全活動 ● オールトヨタ連携活動への参画	—	—	○
循環型社会の構築	自然共生社会構築に資する社会貢献活動の推進	● 地域社会と連携した社会貢献・ボランティア活動	—	—	○
	リサイクルしやすい製品設計と技術開発の推進	● 設計見直しによる解体性の向上 ● リサイクル材の活用推進	—	—	○
	生産活動における排出物の低減と資源の有効利用	● 生産の歩留り向上 ● 3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動の推進	東海理化 0.37 t/百万個	東海理化 0.35 t/百万個	○
	生産活動における水使用量の低減	● 水のリサイクル利用(半導体、メッキ工程) ● 水のリスク評価	—	—	○
環境経営	物流活動における梱包・包装資材の低減と資源の有効利用	● 収容方法見直しによる梱包・包装資材の低減 ● 梱包資材のリユース化	東海理化 0.561 t/億円	東海理化 0.647 t/億円	×
	連結環境マネジメントの強化推進	● 連結環境マネジメントの強化・推進 ● 生産拠点のEMS外部認証取得	—	—	○
	ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	● 協会社への環境情報展開 ● 協会社との現地研鑽活動	—	—	○
	グローバル従業員教育・啓発活動の強化	● 教育実施による環境キーマン育成 ● 環境月間での啓発活動展開	—	—	○
	各国、各地域の都市大気環境改善	● 低公害車の導入拡大	東海理化 70.0%	東海理化 74.0%	○
	環境情報の積極的開示とコミュニケーションの充実	● 東海理化レポート、エコデータファイルの発行 ● 地域懇談会の開催	—	—	○

### TOPICS

#### トヨタ自動車(株)より「環境推進優秀賞」を受賞

当社は、カーボンニュートラルの実現に向けてサプライチェーン全方位で取り組みを加速しています。

製品戦略では、樹脂における低CO<sub>2</sub>材への代替化が実行段階に入りました。生産戦略では、温室効果ガスであるSF<sub>6</sub>の代替化や、エネルギーの見える化システム導入による徹底したムダどり、敷地内への太陽光発電導入に加えオフサイトPPAなどを利用した再エネ電力の拡充を行っています。調達戦略では、仕入先現地での巡回指導や社

内教育への受入れによる省エネ支援を開始しました。物流戦略では、ハイブリッドトラック等の環境対応車への切替えを計画的に進めています。

このような取り組みが評価され、トヨタ自動車(株)より「環境推進優秀賞」を受賞しました。今後も、サプライチェーン全体での環境負荷低減により、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

